

令和元年度（平成31年度）学校評価アンケート結果

- 1 令和元年度保護者アンケート
平成30年度保護者アンケート（参考）
- 2 令和元年度生徒アンケート
- 3 平成30年度生徒アンケート（参考）
- 4 令和元年度職員アンケート
（今年度の重点目標）
- 5 平成30年度職員アンケート（参考）
（今年度と重なる項目のみ）

評価基準及び凡例

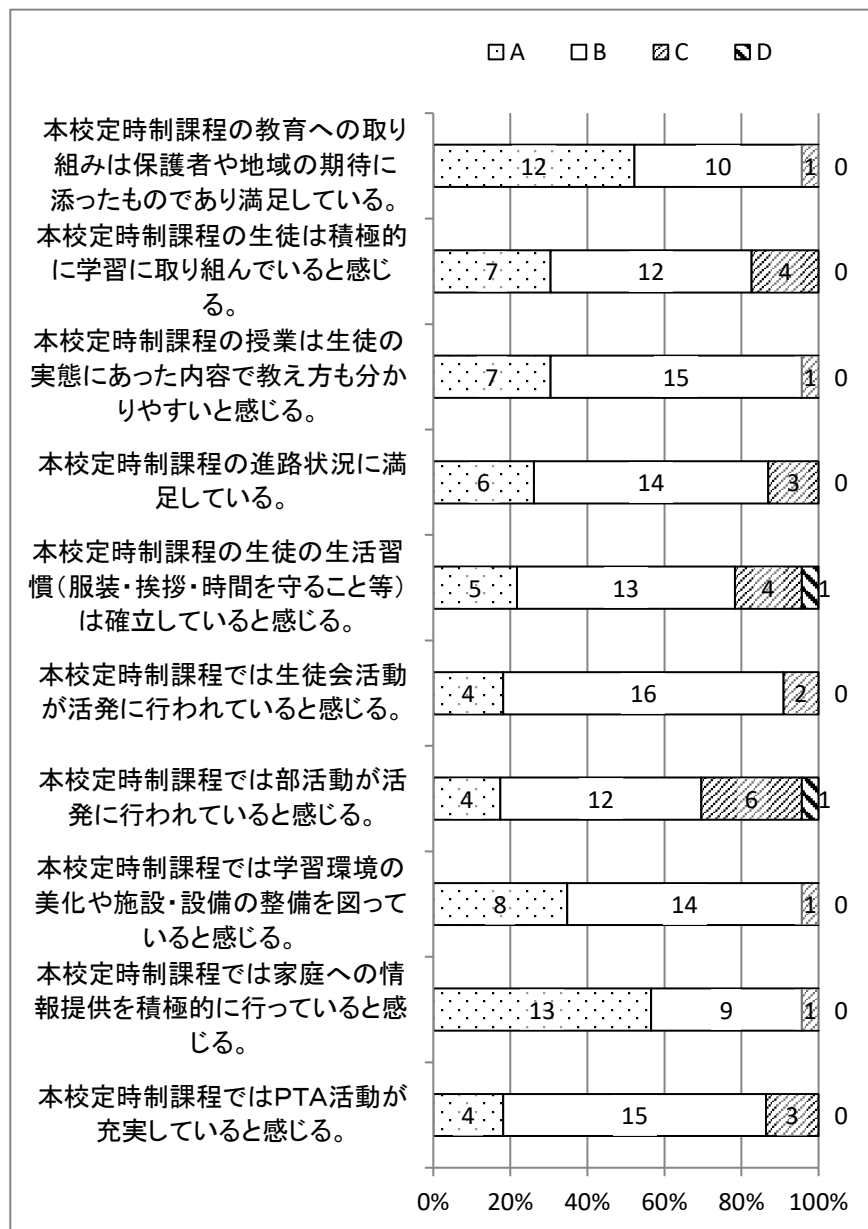
保護者・生徒アンケート

- A よく当てはまる
- B やや当てはまる
- C あまり当てはまらない
- D 全く当てはまらない

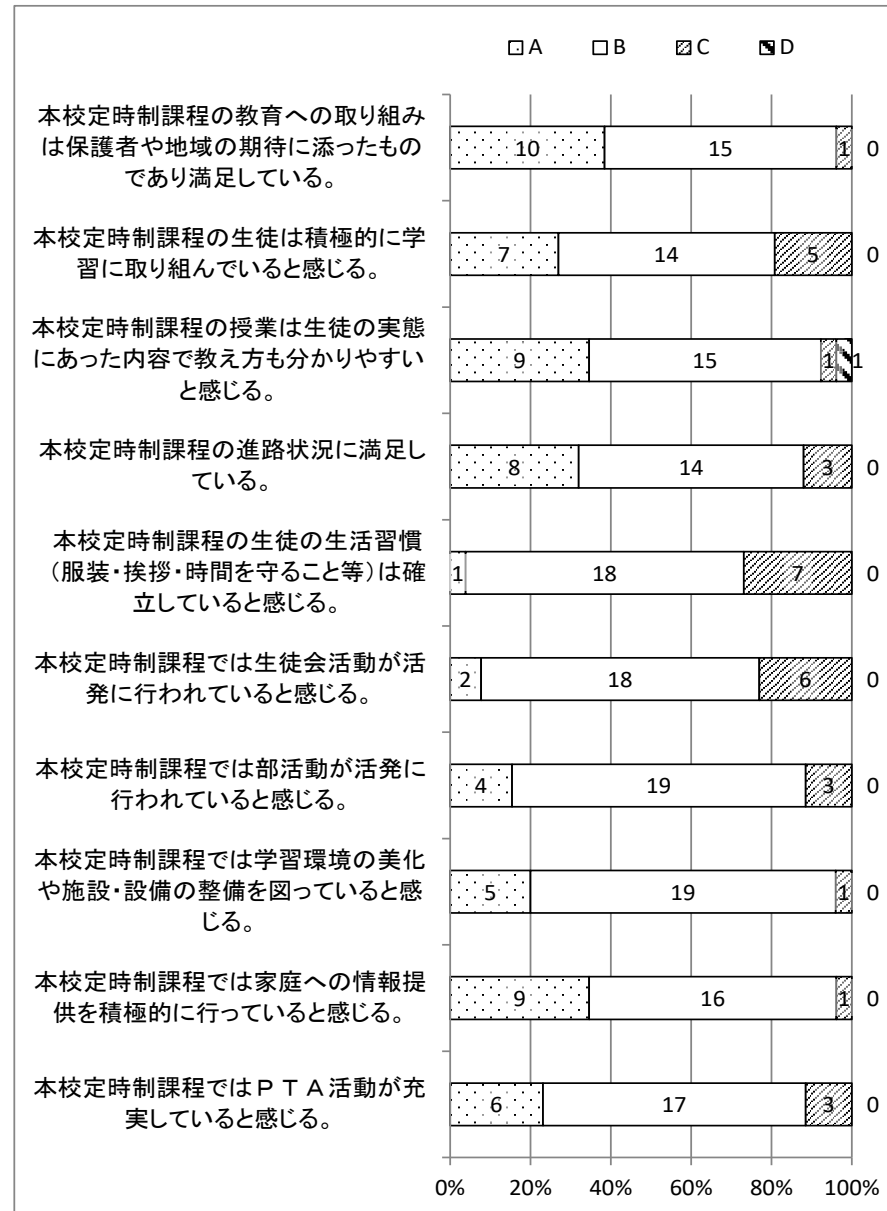
職員アンケート

- A 達成
- B ほぼ達成
- C やや不十分
- D 不十分

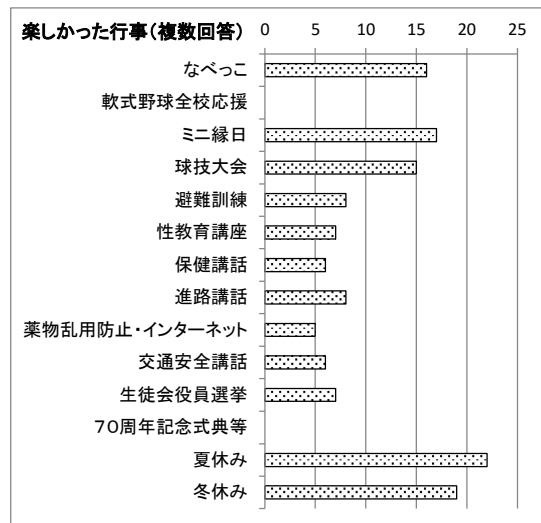
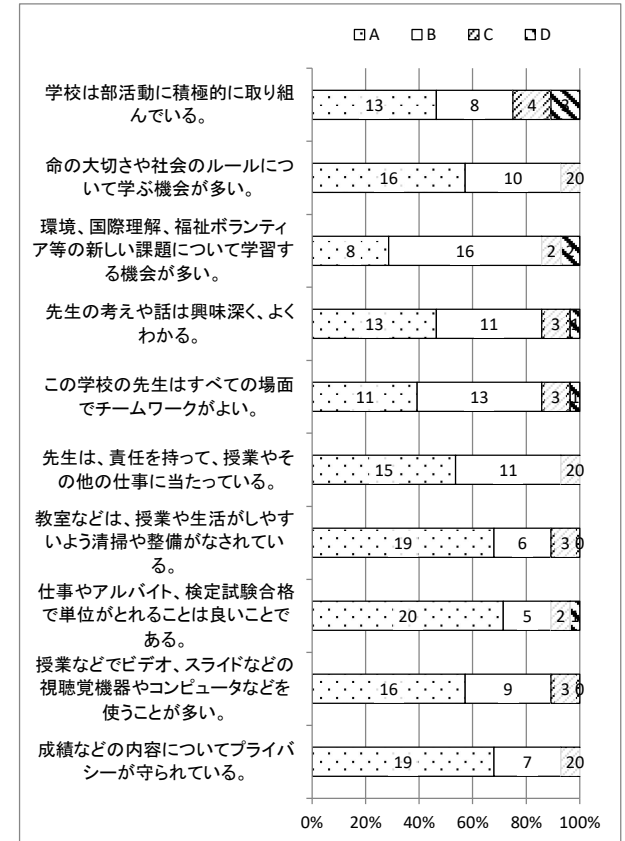
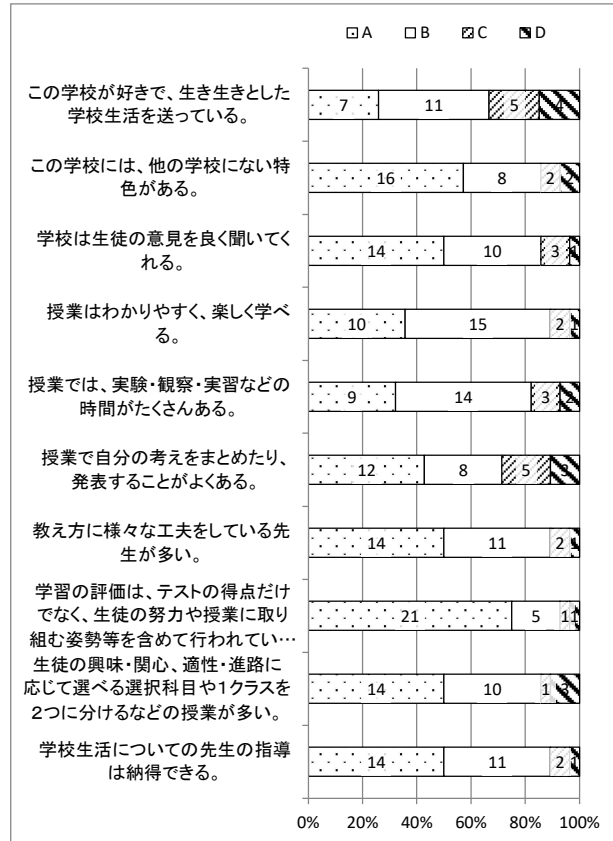
回収率 82.1%

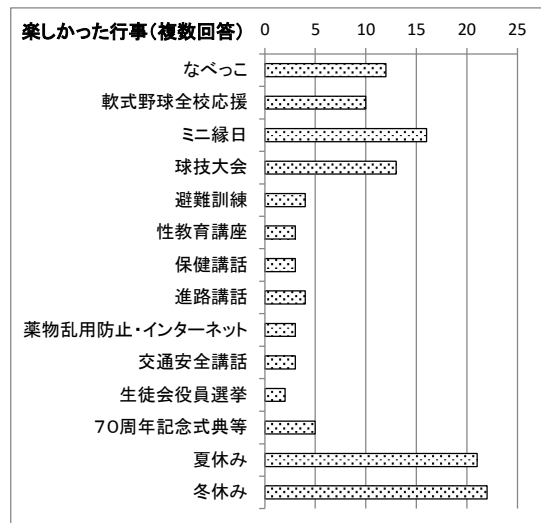
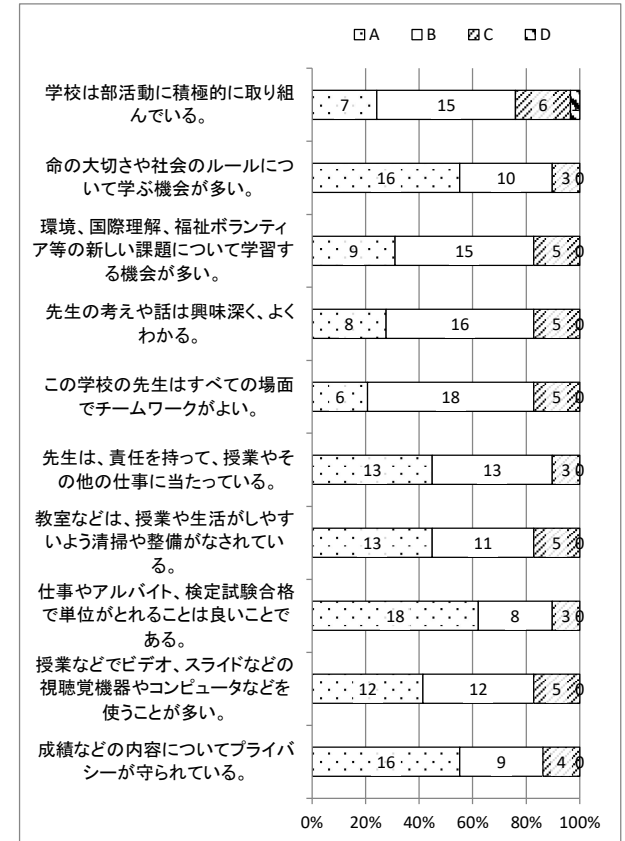
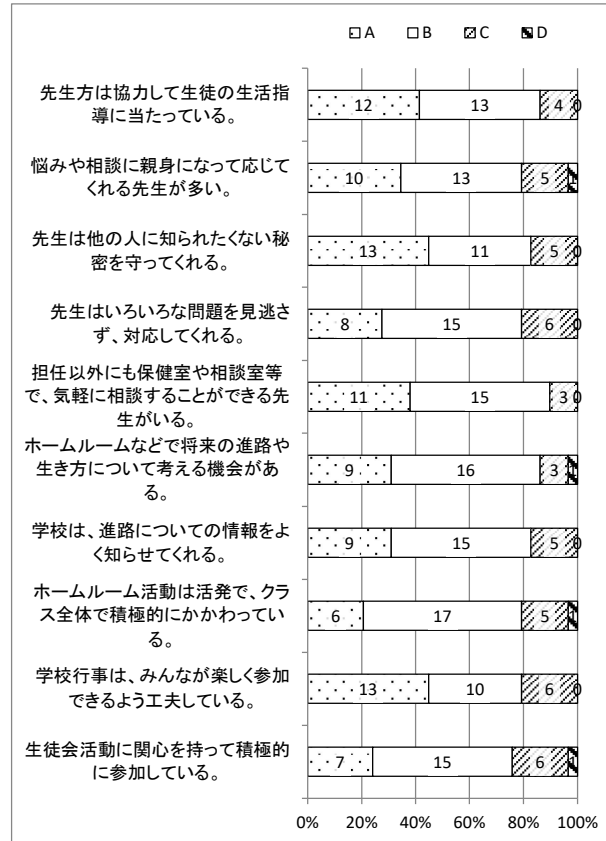
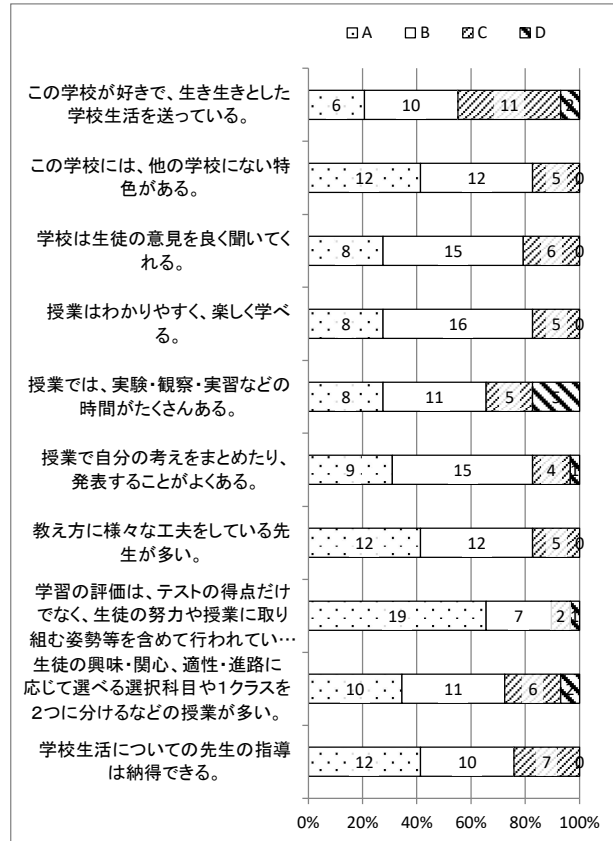


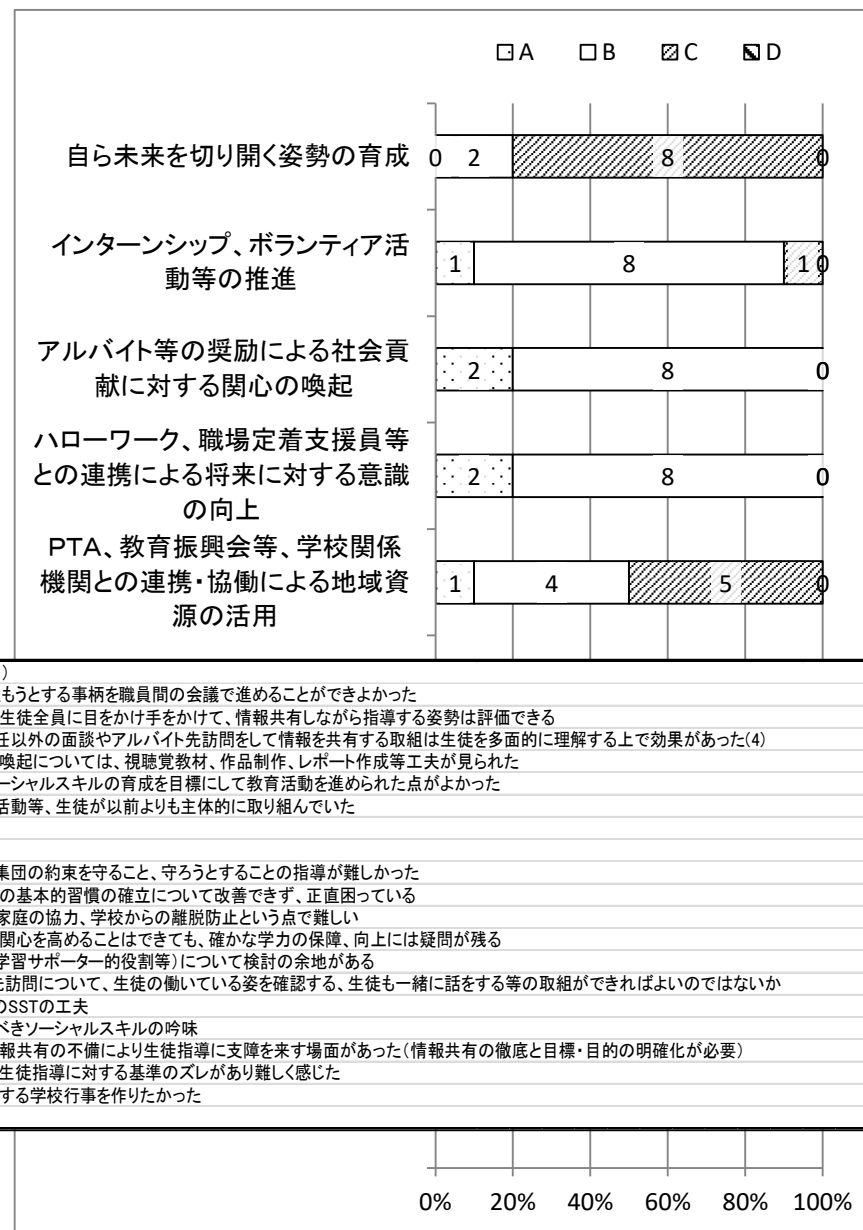
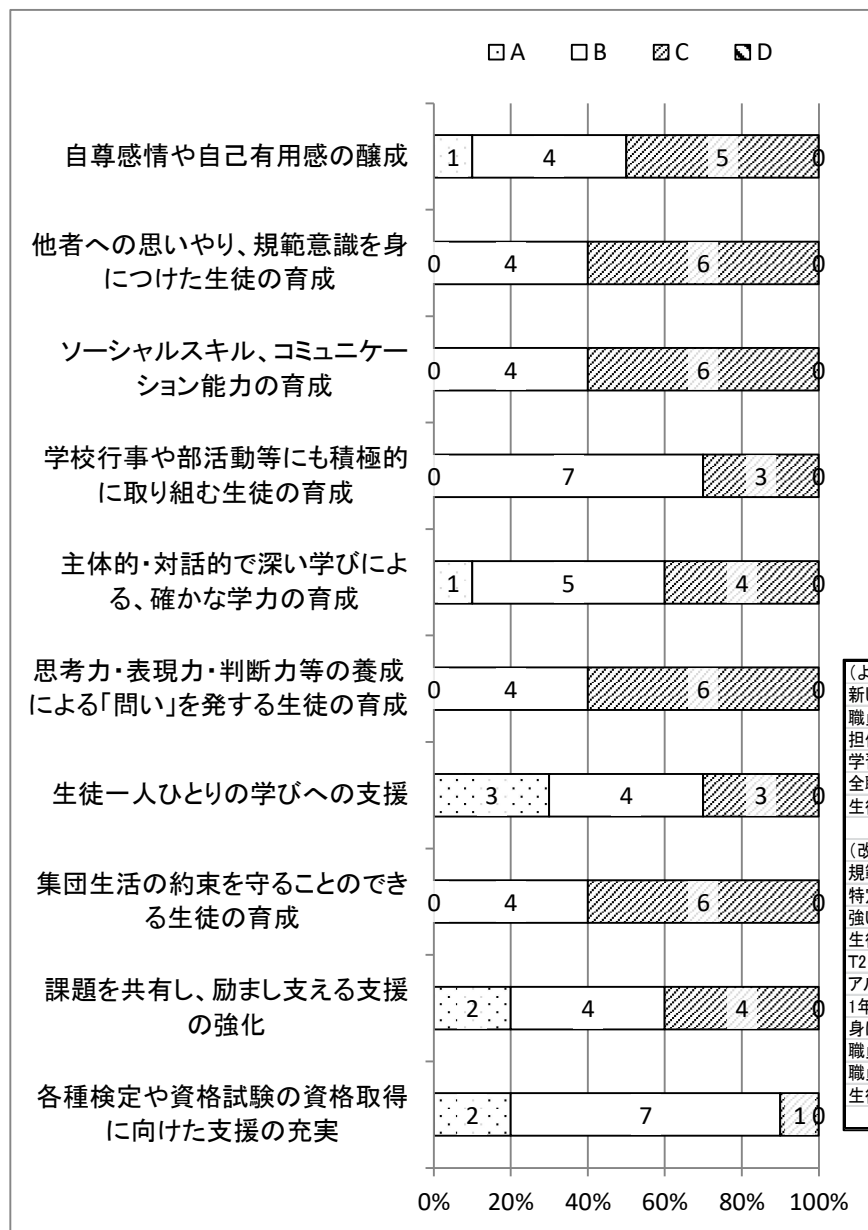
(参考 平成30年度 回収率92.9%)



(自由記述) ・親身になってもらい感謝している。 ・生徒会活動やPTA活動についてはよくわからず、評価できません。







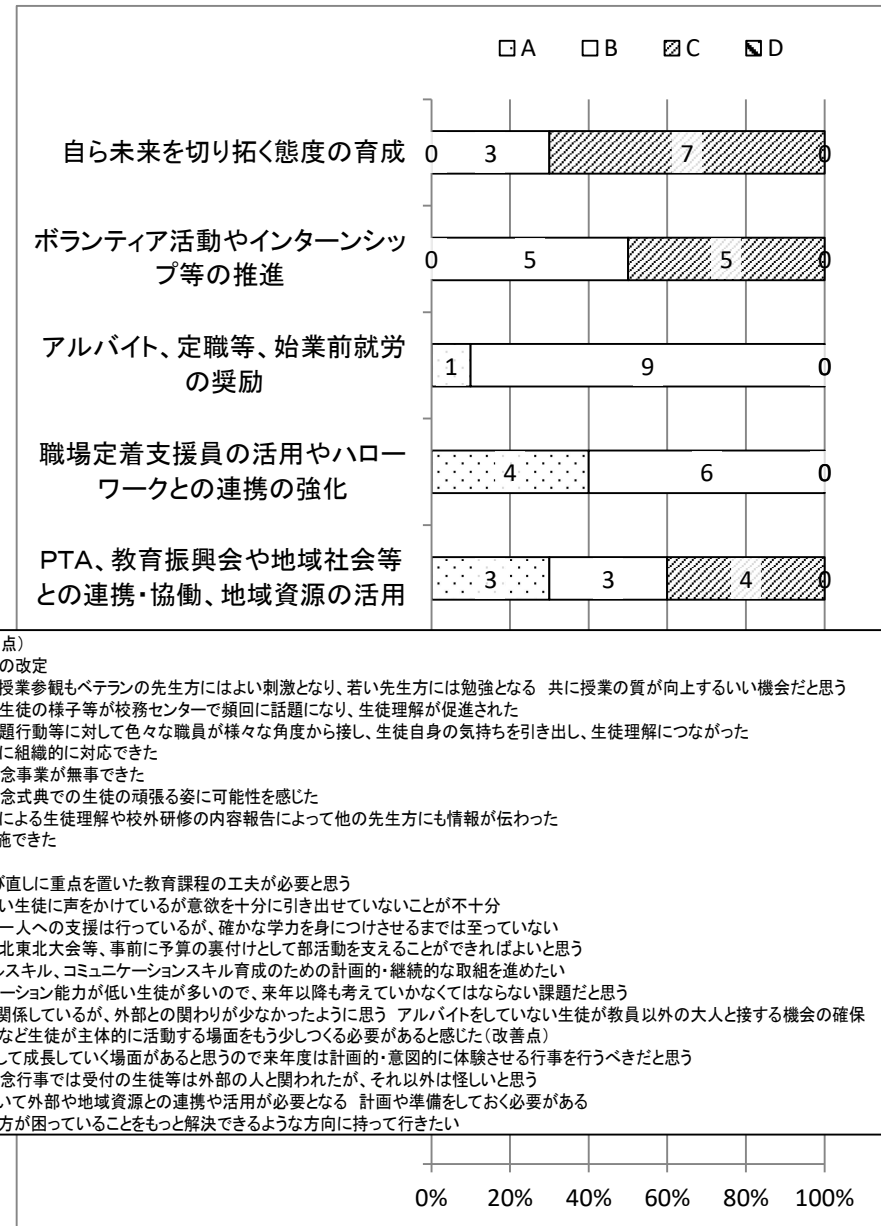
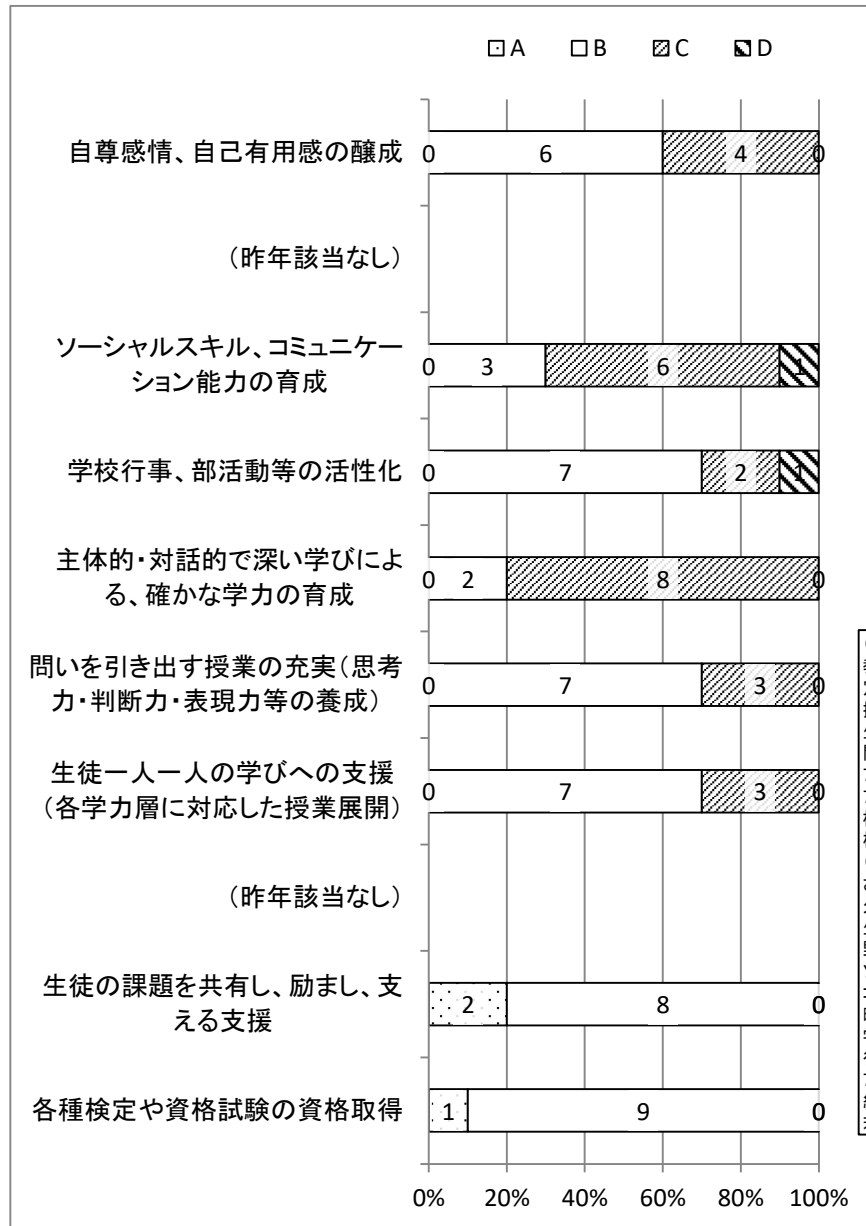
(よかった点)
 新しく取り組もうとする事柄を職員間の会議で進めることができよかった
 職員全員が生徒全員に目をかけ手をかけて、情報共有しながら指導する姿勢は評価できる
 担任、副担任以外の面談やアルバイト先訪問をして情報を共有する取組は生徒を多面的に理解する上で効果があった(4)
 学習意欲の喚起については、視聴覚教材、作品制作、レポート作成等工夫が見られた
 全職員でソーシャルスキルの育成を目標にして教育活動を進められた点よかった
 生徒会、部活動等、生徒が以前よりも主体的に取り組んでいた

(改善点)
 規範意識、集団の約束を守ること、守ろうとする事の指導が難しかった
 特定の生徒の基本的習慣の確立について改善できず、正直困っている
 強い指導と家庭の協力、学校からの離脱防止という点で難しい
 生徒の意欲関心を高めることはできても、確かな学力の保障、向上には疑問が残る
 T2の役割(学習サポーター的役割等)について検討の余地がある
 アルバイト先訪問について、生徒の働いている姿を確認する、生徒と一緒に話をする等の取組ができればよいのではない
 1年次総探のSSTの工夫
 身につけるべきソーシャルスキルの吟味
 職員間の情報共有の不備により生徒指導に支障を来す場面があった(情報共有の徹底と目標・目的の明確化が必要)
 職員間での生徒指導に対する基準のズレがあり難しく感じた
 生徒が主導する学校行事を作らなかつた

0% 20% 40% 60% 80% 100%

5 平成30年度職員アンケート(参考)
(今年度と重なる項目のみ)

平成31年1月回収(回収率100%)



(よかった点)
 教務内規の改定
 定期的な授業参観もベテランの先生方にはよい刺激となり、若い先生方には勉強となる 共に授業の質が向上するいい機会だと思
 授業中の生徒の様子等が校務センターで頻回に話題になり、生徒理解が促進された
 生徒の問題行動等に対して色々な職員が様々な角度から接し、生徒自身の気持ちを引き出し、生徒理解につながった
 問題行動に組織的に対応できた
 70周年記念事業が無事できた
 70周年記念式典での生徒の頑張る姿に可能性を感じた
 校内研修による生徒理解や校外研修の内容報告によって他の先生方にも情報が伝わった
 検定を実施できた
 (改善点)
 さらに学び直しに重点を置いた教育課程の工夫が必要と思う
 欠席が多い生徒に声をかけているが意欲を十分に引き出せていないことが不十分
 生徒一人一人への支援は行っているが、確かな学力を身につけさせるまでは至っていない
 野球部の北東北大会等、事前に予算の裏付けとして部活動を支えることができればよいと思う
 ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル育成のための計画的・継続的な取組を進めたい
 コミュニケーション能力が低い生徒が多いので、来年以降も考えていかなければならない課題だと思う
 時間帯も関係しているが、外部との関わりが少なかったように思う アルバイトをしていない生徒が教員以外の大人と接する機会の確保
 学校行事など生徒が主体的に活動する場面をもう少しつくる必要があると感じた(改善点)
 行事を通して成長していく場面があると思うので来年度は計画的・意図的に体験させる行事を行うべきだと思う
 70周年記念行事では受付の生徒等は外部の人と関わられたが、それ以外は怪しいと思う
 総探について外部や地域資源との連携や活用が必要となる 計画や準備をしておく必要がある
 若い先生方が困っていることをもっと解決できるような方向に持って行きたい